

一般社団法人ジェスパールが行う 「東北こそだてプロジェクト」

一般社団法人ジェスパール 代表理事 宗祥子

活動のきっかけ

私たち(社)ジェスパールは震災後1年を機に設立された団体であり、前身は「東京里帰りプロジェクト」
<http://www.satogeri.org/>です。

東日本を襲った大津波を見ながら、「この中に必ず多くの妊婦さんや乳呑児を抱えたお母さんがいる。寒空の中で着の身着のまま逃げている人たちをなんとかして東京から助けることはできないか?」そんな思いから前身の東京里帰りプロジェクトをたちあげました。平成23年震災直後に、被災した妊産婦さんが東京に避難した際に、助産師が中心になり、東京で安心して出産し産後を過ごせるようにと、東京都助産師会が主体となり支援活動をおこないました。

このプロジェクトは東京での妊産婦支援は、出産のお世話も含め、累計79人にのぼりました。出産までのお世話から上のお子さんの預け先のお世話、産後は助産院で約1か月の滞在、その後東京での住居を探すお手伝いなど、その支援は多岐にわたりました。

しかしほとんどの妊産婦さんたちは、被災地を離れることができませんでしたので、各地で妊産婦支援を行っている助産師さんたちを支援することを通して、妊産婦さんの支援もおこないました。

その累計は合計3,451人

岩手県…507人 宮城県…1,960人 福島県…741人 新潟県…243人にのぼりました。

この活動は多くの方々の寄付にささえられ、また日本財団から助成金を頂くことで活動することができました。平成24年6月でプロジェクトは終了いたしました



赤ちゃん訪問こそだてシップ(大船渡・陸前高田)

た。

しかし、震災から1年たった被災地の状況は、変化しているのは避難所から仮設住宅に移動できたことぐらいでした。東北沿岸部の数多くの市町村は、行政も機能が回復しているとは言えず、日々の暮しを担う街並みは全くと言ってよいほど変わってはいませんでした。

被災地域に住む妊産婦さん、乳呑児をかかえたお母さん達は不慣れた仮設住宅に住み、近隣を気にしながら子育てをしています。そんな状況のなか、助成金が終わりになるからと言ってこのまま活動を終わりにしてしまうことはできませんでした。何とかしてこの活動を続けたいとの思いでジェスパールをたちあげました。

ジェスパールは前身の活動から引き続き、各地で震災支援活動を通じた助産師を結び付ける被災地や避難先各地での被災妊産婦への支援を行っています。



遠野まんまるサロン
(岩手県遠野市)

事業目的

母親が周囲に大切にされ、喜びを感じながら子育てをすることが、母と子の健全な関係及び子の安定した成長のためには必要です。健全な環境下で生まれた子の成長は、健全な社会の発展につながります。母親の心身の健康は、子どものよりよい人生の素地、社会の基盤づくりにとって欠くことのできないものです。それが根底から揺るいでいるのが被災地での子育てということができません。

私たちは、東日本大震災後の東北被災地の母親を支援する中、ふたつの思いを強く抱くようになりました。ひとつは、東北被災地の母親が直面している問題は全国の母親たちが平時から抱えている問題が露呈したものに過ぎないということ。

もうひとつは、災害時においては、心とからだの両面で総合的・継続的な支援を行うことが重要であり、ソフト面からの支援及び母親の心のケアにより、母親が子どもを生み育てることを誇らしく楽しく思えるようになるためには長い年月がかかるということです。

私たちは、東北被災地の母親が、安定した環境で安心して出産と子育てを行えるよう長期的にサポートすることにより、復興後の未来を紡いでいく東北の子ども達が未来への希望を持ち、社会を支えていけるようになることを目的としています。

具体的な事業内容

私たちの活動地域は広範囲に及びます。東日本大震災で津波の被害に遭った東北沿岸部の多くを網羅し、福島県の活動とも結びついています。おもな活動を北からご紹介します。

岩手県の花巻市の助産師が中心になって活動している「まんまるサロン」、活動地域は久慈市、宮古市、